

群馬におけるデータを活用した農業の動き

群馬経済研究所 主任研究員 須藤一麻

調査のポイント

「データを活用した農業」が必要とされる背景と現状を整理し、県内の状況を示し、その導入事例を紹介する。

要約

- 2020年3月の「食料・農業・農村基本計画」では、「デジタル技術を活用したデータ駆動型の農業経営」を目指すとしている。
- 群馬県内では農業従事者の減少と高齢化が進んでおり、農業の効率化、高収益化を進める必要がある。
- 「データを活用した農業」とは、デジタル技術を使い、農業の生産から流通に関わる多様なデータを取得・分析して農業経営を行うことで、農業DX実現につながるものといえる。
- 群馬で「データを活用した農業」を行っている経営体の割合は2020年で2割未満となっている。
- 県内ではデジタル技術を利用した「データを活用した農業」について、農業の生産現場や流通現場で取り組みがみられる。
- デジタル技術は利用しやすくなっており、今後はデータ活用がいかに農業に有効かということを示していくことが重要である。
- 群馬県では農業DXを進めており、スタートアップ企業との協業により課題解決を行い、持続可能な農業を目指す「ぐんまAgri×NETSUGEN共創」事業などを実施している。
- 今後、組合組織の活動、企業の農業参入、そして県によるサポートなどにより、「データを活用した農業」の普及、ひいては農業DXの実現に近づいていくことが期待される。